

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	苫小牧駒澤大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	トマコマイコマザワダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	インターンシップA、インターンシップB
	学部・研究科等名	国際文化学部 キャリア創造学科
	担当教職員名・役職	川島和浩(教授) 田崎悦子(准教授)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	41
	受入企業等数	16
	受入企業等名	三星、栗林商会苫小牧支社、イオン北海道イオン苫小牧店、ホイルニュー王子、JTB北海道苫小牧支店、近畿日本ツーリスト苫小牧支店、北海道新聞苫小牧支社、苫小牧民報社、総合商研、室蘭まちづくり放送、イエローグローブ苫小牧店、井関農機(つくばみらい事業所)、スポーツデータバンク、らーめん寅乃子、曹洞宗中央院、苫小牧市役所(商業振興課、観光振興課、まちづくり推進課、学校教育課、消防本部・消防署)
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ.5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ.7.中小企業でのインターンシップ.8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事.2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	新聞社では記者と同行し、取材対象者に対するインタビューおよび写真撮影に基づいて取材内容を紙面に取りまとめている。市役所ではまちづくりの観点から、地元商店街の店主に聞き取り調査をして課題解決に向けた提案を関係者の前で発表している。港湾関係では港湾施設の見学と同時に通関業務の体験を行っている。旅行関係では店舗のPOP作成や模擬的な旅行行程表作りを行っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している.6.当該インターンシップは、選択科目として実施している.8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～4年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本学は平成12年度からインターンシップを正規授業科目(2単位)として3年次生を対象に実施してきたが、キャリア教育の拡充のために、平成26年度から「インターンシップA」科目を2年次生、平成27年度から「インターンシップB」科目を3年次生を対象に実施している。「インターンシップA」科目では実質5日間以上、「インターンシップB」科目では実質10日間以上の就業体験を義務づけ、職業観の育成を図っている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている.2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている.3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている.4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている.2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている.3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	平成28年度までは全4回の事前研修会を実施していたが、キャリア教育の拡充のために、平成29年度からは「キャリアアップ1」科目と連動して、インターンシップの趣旨や目的の理解、実習目標の設定、企業研修、挨拶・電話対応の実践練習を通じたビジネスマナーの習得、研修中のリスクマネジメントなどを行っている。

	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	研修学生には、研修期間にわたって大学独自の「日誌」を毎日書くことと、その記述された日誌を受入担当者に見せて確認印をもらうことを義務づけている。また、研修後1ヶ月以内にレポート(1,200~2,000文字)を作成して、それらを踏まえて次学期の最初の時間で就業体験報告会を開催し、他の研修学生に対して自らの体験等を報告するなど振り返りを実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ担当教員が学生のインターンシップ期間中に受入先を訪問し、受入担当者と研修計画書に基づく研修学生の研修状況の報告を受け、その後、実際に研修学生と面談を行っている。このなかで、研修学生から当初の研修目標がどの程度達成されているかを聞取ると同時に、受入担当者に対して、場合によって、研修内容の修正の申し入れを行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ報告会の終了後に、研修学生に対してインターンシップアンケートを実施・回収している。また、インターンシップ受入担当者から研修学生に対する「事後評価票」を提出してもらうとともに、そこに研修学生に対するアドバイスを記述してもらっている。その後、アンケートでの研修学生の反省点と受入担当者の評価およびアドバイスのもとづいて今後の動機づけの指導を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入研修先に明記した企業・団体等において、「インターンシップA」科目では5日間のインターンシップを行っている。なお、「インターンシップB」科目において、イオン北海道イオン苫小牧店で実質21日間のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの実施前に、インターンシップ担当教員が受入担当者と面談を行い、昨年度の研修成果を参考にして、当該年度の研修プログラムを作成・確認している。その際に、当該年度の研修学生に対する「事後評価票」の記入・返送のお願いをすると同時に、研修学生が毎日記述する「日誌」の確認と記述された内容に対する意見・感想の記入の依頼を行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	平成29年度「インターンシップA」 http://192.168.3.25/Syllabus/s_list2.asp?srch=1&div1=304 平成29年度「キャリアアップ1」 http://192.168.3.25/Syllabus/s_list2.asp?srch=1&div1=302
問い合わせ先	大学等名	苫小牧駒澤大学
	担当部署名	教育サポートセンター
	担当者役職名	教授
	担当者氏名	川島和浩
	電話番号	0144-61-3121
	メールアドレス	kz03691@e.t-komazawa.ac.jp